

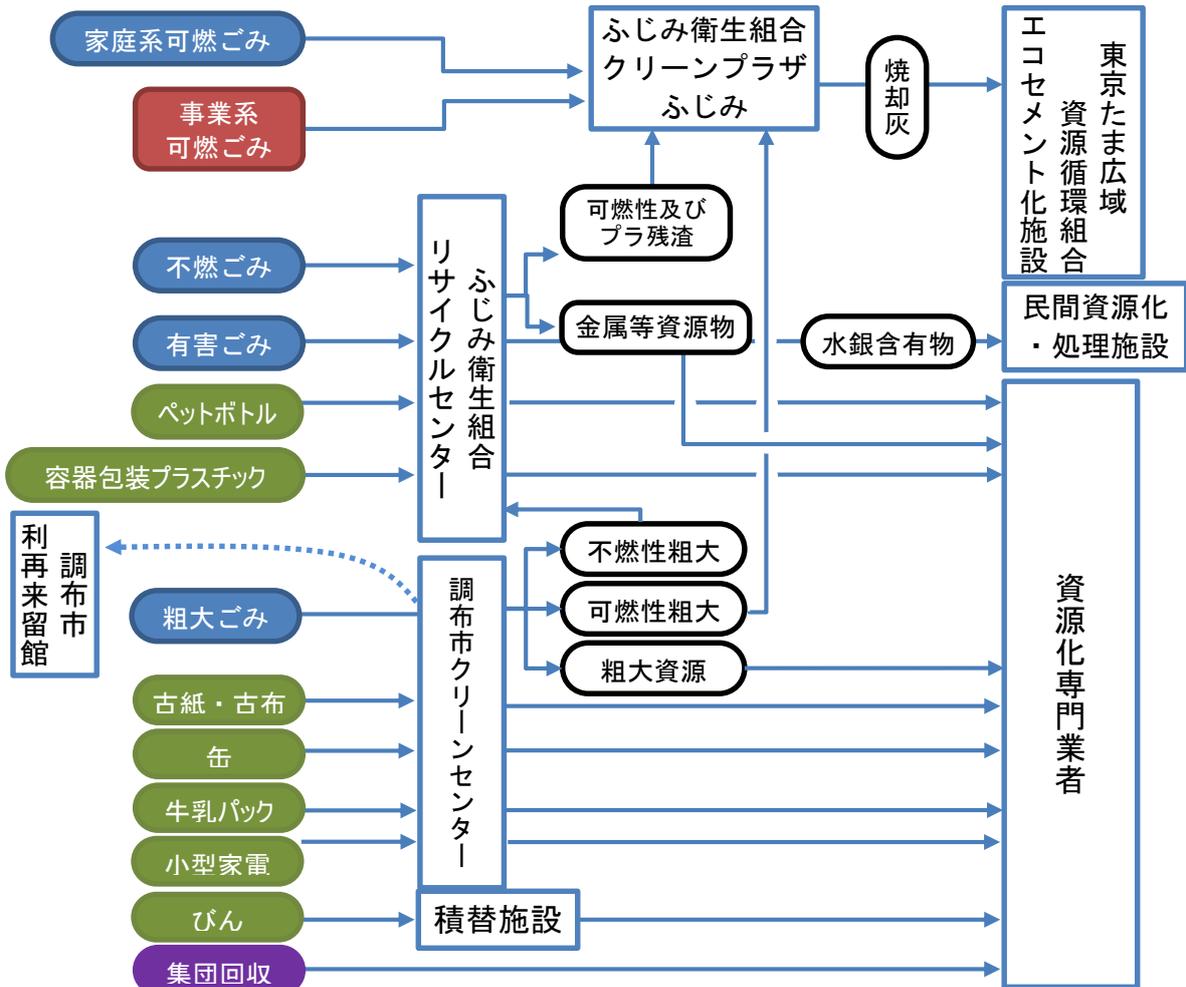
現行の一般廃棄物処理基本計画の概要

1. 調布市のごみ処理・リサイクル事業の概要

(1) ごみ処理・リサイクルシステムの概要（※参考：現行計画9ページ～）

- ごみの分別は燃やせるごみ・燃やせないごみ・粗大ごみ・有害ごみの4つです。資源物は、ペットボトル、容器包装プラスチック、古紙・古布、びん、缶を分別収集しているほか、牛乳パックと使用済小型家電製品の拠点回収を行っています。
- 不燃・粗大・有害ごみや資源物は、調布市と三鷹市で構成するふじみ衛生組合リサイクルセンター及び調布市クリーンセンターで選別処理しています。
- 選別後の残渣(ざんさ)と可燃ごみは、ふじみ衛生組合の焼却施設（クリーンプラザふじみ）で焼却処理しています。焼却灰は多摩地域25市1町の自治体で構成する東京たま広域資源循環組合のエコセメント化施設でセメント化し、埋立処分量はゼロとなっています。

図表1 ごみ処理・リサイクルの流れ



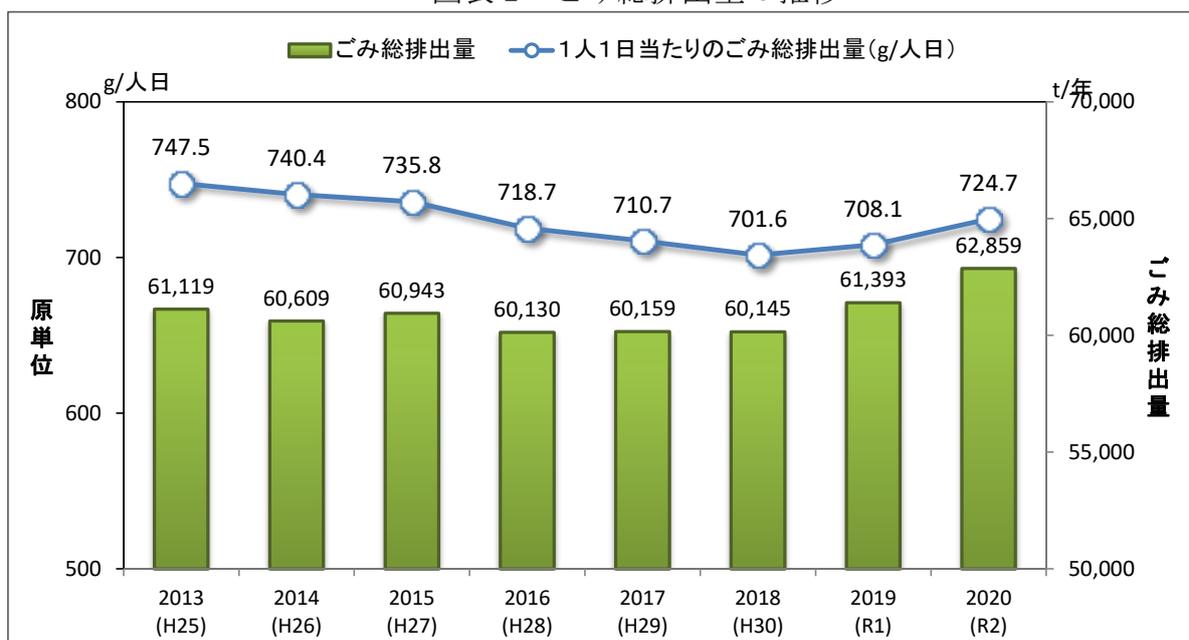
※テレビ・冷蔵庫・エアコン・洗濯機・衣類乾燥機、パソコン、適正処理困難物は収集対象外

(2) ごみ量・資源物量の推移

①ごみ総排出量

1人1日あたりのごみの総排出量は減少傾向にありましたが、2019（令和元）年度から増加に転じ、2020（令和2）年度は大幅増となりました。主な要因は、コロナウイルス感染症拡大による家庭における巣ごもり需要（飲食料品や日用品）の増大にあると考えられます。

図表2 ごみ総排出量の推移



総ごみ量：家庭系ごみ，資源（集団回収を含む），事業系ごみの合計

原単位：総ごみ量÷人口÷年間日数

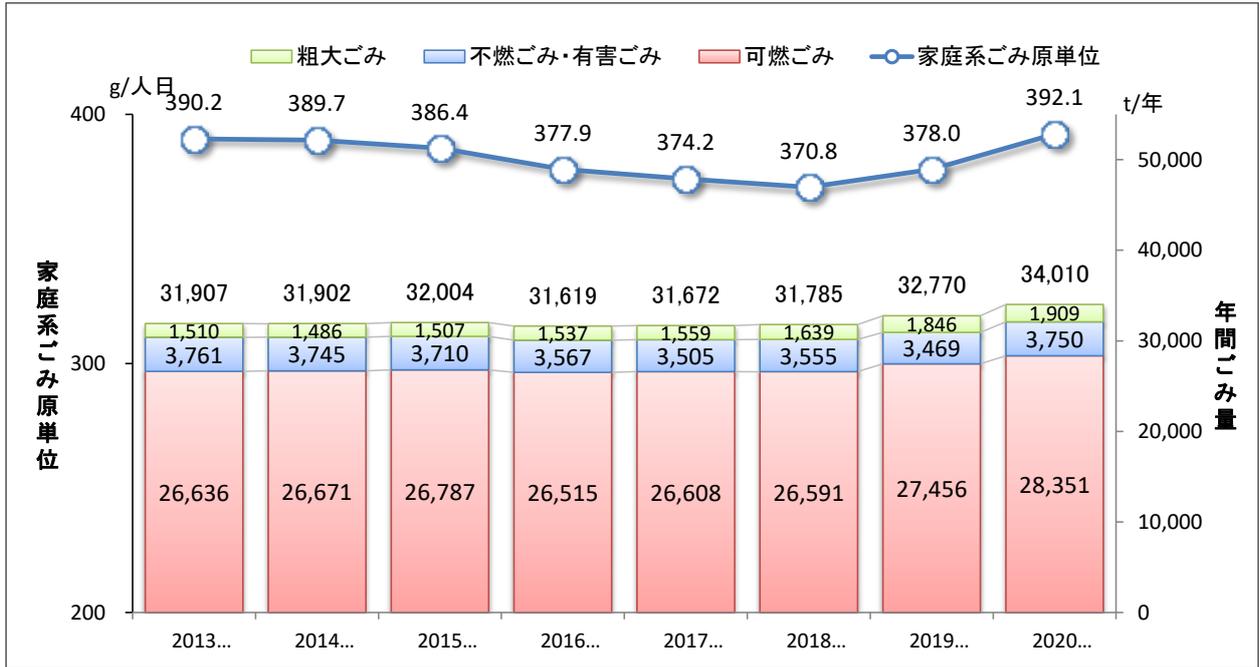
②家庭系ごみ量

家庭系ごみ（燃やせるごみ，燃やせないごみ，粗大ごみ）の量についても、2019（令和元）年度から増加に転じ、2020（令和2）年度は大幅増となっています（図表3）。

③事業系可燃ごみ量

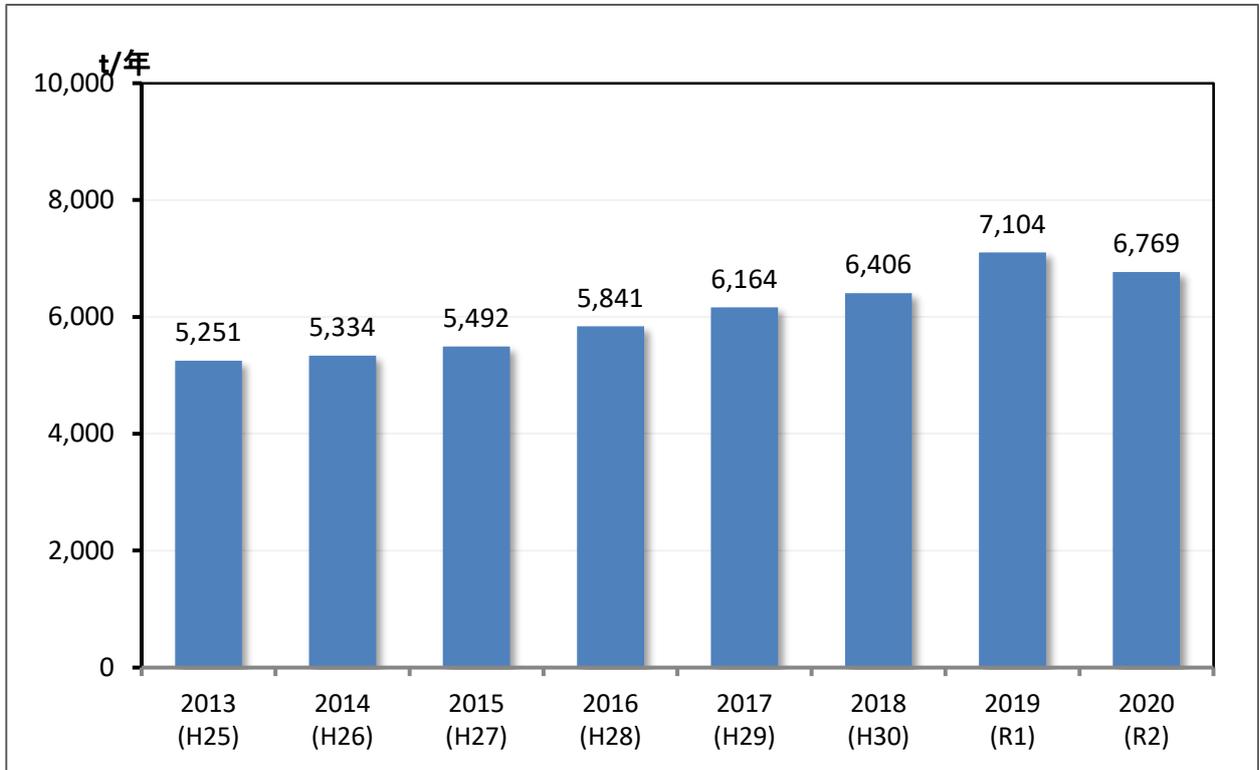
ふじみ衛生組合クリーンプラザふじみ（清掃工場）に持ち込まれた調布市内の事業系可燃ごみ量は図4に示すとおり、コロナ禍の影響で2020（令和2）年度に対前年度比で減少に転じています。

図表3 家庭系ごみ量と原単位の推移



家庭系ごみ原単位：家庭系ごみ（可燃，不燃，有害，粗大）÷人口÷年間日数
 ＊事業系可燃ごみや資源物は除きます

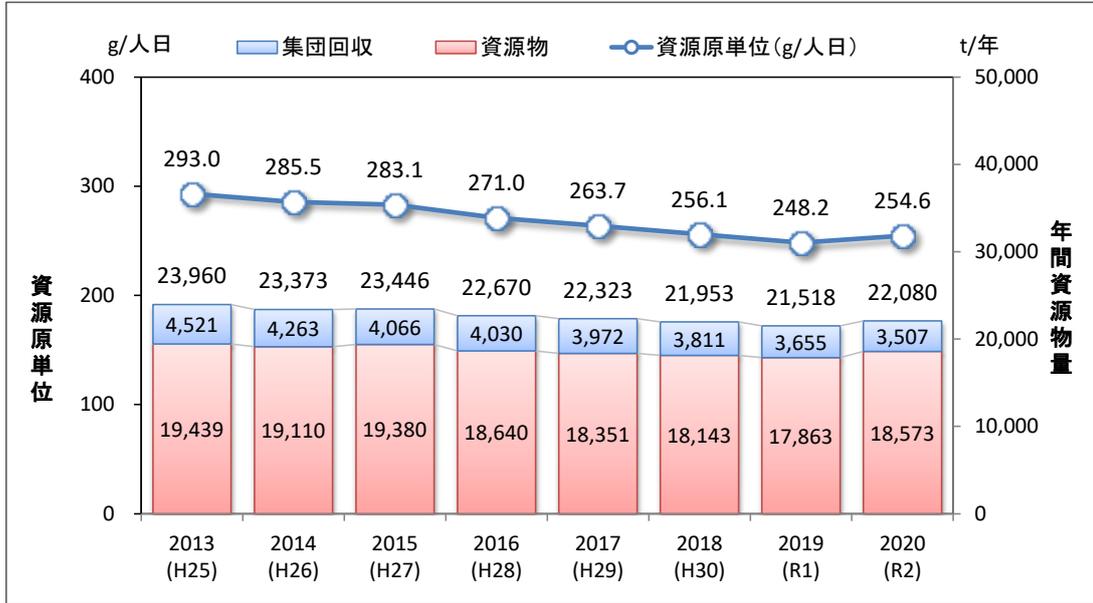
図表4 事業系可燃ごみ量の推移



④資源物・集団回収量の推移

新聞発行部数の減少などで、資源回収量は年々減少傾向にありましたが、昨年度は菓ごもり需要の影響で段ボールやプラスチック容器包装などが増加しました。

図表 5 資源物・集団回収量の推移

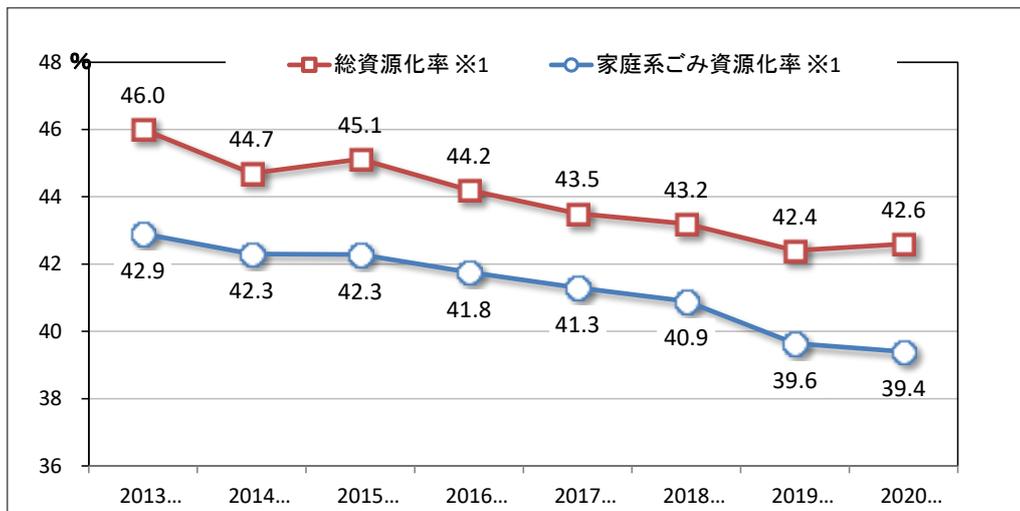


⑤資源化率の推移

資源物・集団回収量は増加しましたが、ごみ量がそれ以上に増加したため、2020（令和2）年度の家庭系ごみ資源化率は前年より減少し39.4%となっています。

一方、総資源化率はエコセメント化や不燃性粗大からの金属回収等が増えたことから、前年より0.2ポイント増の42.6%となりました。

図表 6 資源化率の推移



※1 総資源化率 = (資源物 + 中間処理施設資源化量 + 集団回収) ÷ ごみ総排出量

*粗大ごみからの金属回収や焼却灰のエコセメント化を含む

家庭系ごみ資源化率 = (資源物 + 集団回収) ÷ (ごみ総排出量 - 事業系ごみ量)

*家庭から出る不用物の内、資源として分別された割合

2. ごみ処理の方針と目標（※参考：現行計画 20 ページ～）

(1) 基本的考え方

「ごみの発生抑制を最優先とし、循環型社会の構築を目指す」という基本的考え方に基づき、新たに以下のキャッチフレーズを定めました。

未来のため 地球のため さらに減量・リサイクル
～みんなではぐくむ「もったいない」の心～

(2) 基本方針と数値目標

3つの基本方針に基づき、2022（令和4）年度における数値目標を新たに設定しました。

図表7 現行計画の基本方針と2022（令和4）年度の数値目標

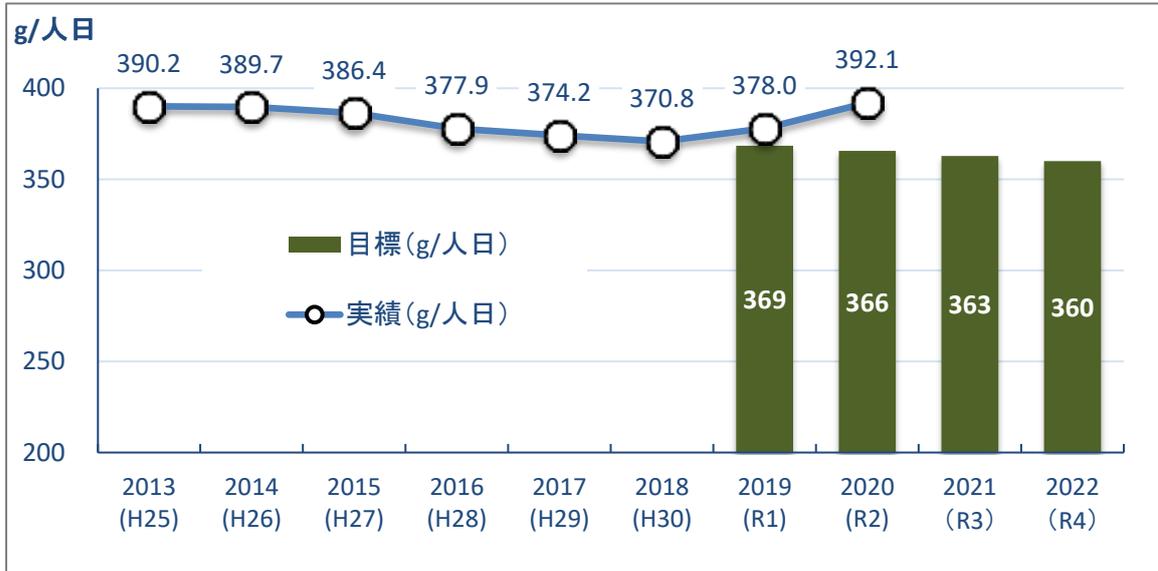
基本方針1 家庭系ごみの削減	基本方針2 さらなるリサイクルの推進	基本方針3 適正かつ安定的な処理の確保
《数値目標》 ・家庭系ごみ原単位 360g/人日	《数値目標》 ・家庭系ごみ資源化率 41% ・総資源化率 43%	《数値目標》 ・最終処分量 ゼロ

参考：基本計画目標の達成状況

次ページの図表8、図表9は基本計画目標の達成状況を昨年度（令和2年度）までの実績で見たものです。

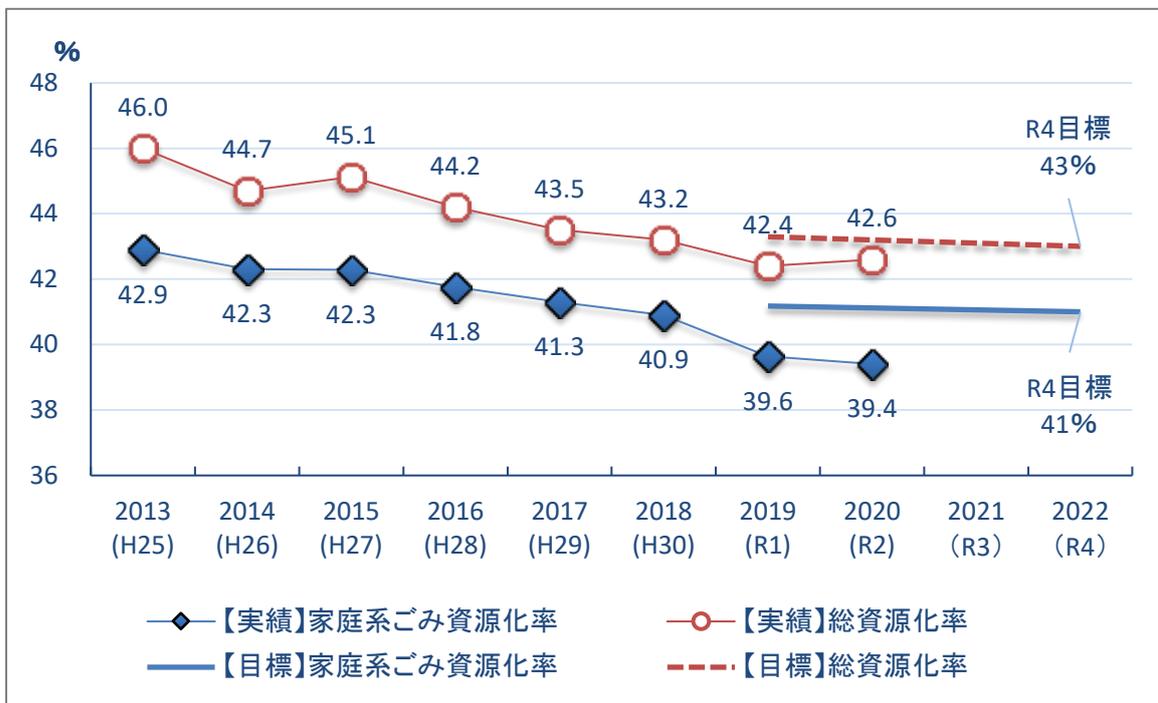
前述のようにコロナ禍等の影響で特に家庭ごみ量が増加しており、「家庭系ごみ排出原単位」「資源化率」ともに現状のままでは目標のクリアは困難な状況です。

図表 8 目標の達成状況：家庭系ごみ原単位



家庭系ごみ原単位：家庭系ごみ（可燃，不燃，有害，粗大）÷人口÷年間日数
 * 事業系可燃ごみや資源物は除きます

図表 9 目標の達成状況：資源化率



総資源化率 = (資源物 + 中間処理施設資源化量 + 集団回収) ÷ ごみ総排出量
 * 粗大ごみからの金属回収や焼却灰のエコセメント化を含む

家庭系ごみ資源化率 = (資源物 + 集団回収) ÷ (ごみ総排出量 - 事業系ごみ量)
 * 家庭から出る不用物の内，資源として分別された割合

3. 現行計画の体系

下図のように、現行計画は7つの個別計画（その他にも含めると8つ）からなっており、各個別計画にはさらに具体的な施策や取り組みが盛り込まれています。

これらの進捗状況や今後の課題については、次回以降の策定委員会で取上げます。

